

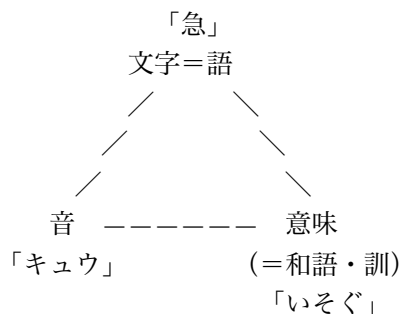
## 日本語と文字

### a. 音／訓とは何か？

日本語の特徴として他の言語と最も顕著な違いが見られるのは、文字に関してである。日本語は表語文字 logogram である漢字と表音文字 phonogram である仮名という2つの異なる文字体系を用いている。それだけでも特徴的だが、より重要なのはその用い方にある。

例えば、「急行」という言葉を人に教えることを考えてみよう。おそらく多くの人が、それは“速い列車”であり、なぜなら「急行」とは“急いで行く”ことを意味するからだと説明するだろう。そこには実は、文字＝語である漢字、漢字のもつ音、語としての漢字に当てられた意味としての和語、という三者が絡み合っている。このことを図示してみる。

【図】 漢字と音と訓の三角形



漢字には「音読み」と「訓読み」という2通りの“読み方”があると教えられるが、これはあまり正確ではない。読み方といえるのは、文字「急」が元々もっていた中国語音の日本語訛りである「キュウ」だけであって、いわゆる訓読みの「いそぐ」は、中国語の単語「急」の意味を日本語に“翻訳”した結果としての和語のことである。つまり日本語は、“1文字1単語”という表語文字としての漢字の性質を利用して、文字のもつ音と語のもつ意味とをそれぞれ「音」「訓」として取り入れているのである。

文字を二重化して用いるこうした方式は、他の言語にはあまり類例がない。例えば韓国語でも漢字とハングル（仮名と同様に表音文字）を併用しているが、日本語の「訓」のような用い方はしない。そのため、例えば、漢語としての「月」/wOr/ と固有語（日本語の和語に相当）としての「つき」/tar/ は、漢字を介して重ね合わされることのない相互に無関係な単語のままである。また、中国語の場合は元々漢字しか用いないから、あるのはただ“文字＝音＝語”の一体化した漢字だけであり、そこに「訓」のような発想の入り込む余地は当然ない。

日本語における漢字の位置づけは、こうした文字の用い方まで含めた問題として理解する必要がある。

### b. 漢字と仮名

日本語母語話者の頭の中では、漢字は【図】のような連関において理解されているため、漢字を見れば大まかな意味の見当をつけることができる（[NOTE]）。その際、漢字の音がわからなくてもあまり支障がないという点は重要である。（日常的な経験からしても、本などを読んでいて読み方のわからない難しい漢字が出てきた場合に、意味の見当だけつけてそのまま先に進むというのは、ごく普通のことだろう。）一方、表音文字である仮名は、それ自体としては音しか表さないため、まずは音として把握した連なりの中から語としてのまとまりを切り出さなければならない。

このことは脳内情報処理の研究によっても裏付けられている。必ずしも音を介さなくてよい漢字の理解と必ず音を介する仮名の理解は、別々の回路で処理することができる。このため、脳損傷の結果として生じる「失読症 alexia」において、日本語母語話者の場合には、漢字に選択的障害が出るケースと仮名に選択的障害が出るケースのあることが知られている。言語治療の臨床においても、すくなくとも、“漢字は仮名より難しい”という思いこみは禁物である。

@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@

[NOTE: 漢字は「表意文字」か?]

漢字は「表意文字 ideogram」だによく言われる。しかし、純粋な表意文字とは、絵文字やそれに準ずる象形文字のことであり、指事文字（「上」「下」のような抽象的概念記号）や会意文字（象形文字の合字）を含めても、数万字ある漢字全体の中でわずか千数百字を占めるにすぎない。

逆に最も多いのは形声文字と呼ばれる種類のもので、音を表す「音符」と意味カテゴリーを表す「意符」からなる。例を挙げると、「勤」「謹」「僅」はいずれも音が「キン」であり、それは音符「董」に由来する。意符は各々「力」「言」「人」だが、それらは文字の意味そのものではなく意味の大まかなカテゴリーを示しているにすぎない。そう考えると、形声文字が表しているのは意味よりもむしろ音であるという見解さえ出てくることになる。

一方、漢字が何を表しているかはともかく、中国語で漢字の1文字がそのまま1単語であることは確かである。こうしたことから、最近では漢字を「表意文字」とは呼ばずに「表語文字」と呼ぶことが多くなっている。

@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@

(『言語聴覚士の基礎知識 音声学・言語学』 第III章 5. 言語学的に見た日本語 より)

日本語と〈ルビ〉

- 日本語のロジック: 「月曜日には生卵をサービス！」



cf. 월요일이 달구경일 이에요. ←通じる？

- “多声性” のルビ  
忘れません 全国の皆さんの温かいご支援を 2005.2.1 三宅村へ帰ります (三宅村)

観覧車回れよ回れ想ひ出は君には一日我には一生 (栗木京子)

“あるがままに”と歌えし偉人がいて 時間は流れ永遠の海へ運命は巡る (桑田佳祐「素敵なき夢を叶えましょう」)

宮沢賢治のルビ

三目星 天末線 光素 土耳古玉 穹窿 発電機